

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第53回広報・見える化部会会議録	
日時	令和5年3月15日(水) 10時00分～12時00分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと1・2・3
出席者	奥井委員、高田部会長、国吉委員、高橋委員、村松委員、望月委員(五十音順)
欠席者	
開催形態	公開(傍聴0人)
議題	1 広報事業の評価・提案について 2 その他
議事	<p>(事務局) 　ただ今から、市民推進会議第53回の広報・見える化部会を開催いたします。</p> <p>　まず、本日の会議について報告します。本会議は、要綱の第5条第2項により半数以上の出席ということが成立条件になりますが、本日、出席されている委員の方は、6名ということで会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>　また、本会議ですが、第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日のこの会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は委員の皆さまに事前にご確認をいただきたいと思っております。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載することとしておりますのでご了承いただきたいと思っております。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌へも掲載させていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>　本日の資料は、次第、資料1になります。また、机上の緑色のフラットファイルに本会で使用しましたスライド等を綴じておりますので、適宜ご覧ください。</p> <p>　事務局からは以上になります。それでは、今後の進行につきましては高田部会長にお願いします。高田部会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>(高田部会長) 　皆様本日もよろしくお願いいたします。気候も大分よくなりました。うちにもシダレザクラがあり、年々早く咲き出している感じです。卒業式に桜が当たり前になってしまいました。昔だったら入学式に桜のイメージですが、気候変動を肌で感じます。同時に、このみどりアップがいかに重要かも感じます。</p> <p>　本日は、みどりアップの評価や提案の話が主になるかと思っております。色々な点で多くの意見をもらい、議論していきたいと思っております。</p> <p>(一同) 　よろしくお願いいたします。</p> <p>(高田部会長) 　それでは、次第の1番に移りたいと思っております。効果的な広報事業の評価・提案について事務局から、ご説明をよろしくお願いいたします。</p>

	(事務局説明)
(村松委員)	<p>森づくりボランティアの取材で、受講者の中で電車の中の広告で見た若い人たちが随分いました。テレビやソーシャルメディア、電車などの動画がとても効果的です。みんなすぐ検索して色々見えています。</p> <p>Twitter やメルマガはとても大変な作業だと思います。職員が1人でやっているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>メルマガは、所管課がたくさん関わっています。所管課から記事を寄せてもらい、職員が一括で文章を整えて作成しています。</p> <p>Twitter は市の職員が直営でやっていた時期がありましたが、一部委託を試験的に始めています。委託先には市民目線で文案を作ってもらっています。</p> <p>Twitter は限られた字数の中で目に止まらないといけません。「いいね」が押せるシステムになっていますので、ほかの記事とも比較し、「いいね」がどのくらい付くのか、我々も神経質にならざるを得ません。</p> <p>最初はかなり時間がかかりました。途中からは、投稿数を多く出さないと目に止まらないし、まず見てもらえないと思いました。数を出していけば、どれに「いいね」を押してくれたか分かってくるのではないかということでした。「とにかく数をやってみよう」ということで今に至っています。</p> <p>速報性で、タイムリーな情報を出していくことが大事です。Twitter で、より深掘りして知りたい人に対し、どのくらいリクエストに応えられるかも大事です。一つの記事で場所や取組を紹介したら、最初の投稿はその取組の表面的なところで、二つ目、三つ目でその一つのことをどんどん深掘りしていけるような投稿もしたりしています。今、正に試行錯誤して取り組んでいます。</p> <p>Twitter の仕組み上、記事に対して返信ももらえるようになっていきます。我々はまだまだSNSの活用について、十分活用ができているとは思っていません。若い職員のほうが生まれながらにしてフル活用しています。本当に勉強しながら取り組んでいます。</p>
(奥井委員)	<p>すごく分かります。大変ですよ。私も勉強中です。すごいなと思います。フォロワー数は増えていますか。</p>
(事務局)	<p>たまにフォロワーキャンペーンをやったりしているので、恐らく200人ぐらいは増えていると思います。</p>
(高田部会長)	<p>「横浜 Go Green」というのですね。これはもう少し増えてもいいですよ。フォロワー数は約7,000人ですか。</p>
(事務局)	<p>アカウント名は「横浜 Go Green」です。環境創造局に色々な事業があり、下水や環境保全、みどりなどあります。その事業を取りまとめたアカウントが「横浜 Go Green」です。</p>

	<p>我々は「#みんなでみどりアップ」で発信しています。</p> <p>色々なものが同じアカウントでPRされています。トータルでここを見る人が中を見ていくこともあります。みどりアップを見てからほかの環境について興味を持ってもらうこともあるかと思います。今年から工夫して局全体でやっています。</p>
(村松委員)	メールマガジンはどうやって登録すればいいですか。
(事務局)	市ホームページに登録のページがあります。登録だけではなく毎月ホームページでもメルマガの内容を紹介しています。
(奥井委員)	広報は時間を割いてやらなければいけないので大変だと思います。私も1人で手が回りません。すごくよく分かります。
(事務局)	気軽に数を出すのが大事ですが、もちろん不正確な情報を出してはいけません。あまり問題になるような投稿もできません。見た人に面白く感じてもらうには、ある程度担当者のオリジナルで任せていかないといけないとも思っています。バランスが本当に難しいです。私も課長として「チェックしろ」とか「こういうふうによれ」とはあえて言わないようにしないといけないと思っています。若い人の自由な発想をできるだけ生かすように気をつけています。
(奥井委員)	やはりスマホで見るので、一瞬で目を引くようにするには、あまり難しいことを書いたらいけないですね。情報がどんどん流れてしまうので、そこをキャッチするにはある程度分かりやすさの工夫がいります。
(村松委員)	葉っぱーはかわいいですが、年何回くらい出動していますか。
(事務局)	着ぐるみですと大きいイベントに年3回か4回くらい出るようにしています。コロナ禍で着ぐるみは約3年休眠していました。今年度の秋口から登場させています。スプリングフェアや春の里山にも出ていこうと考えています。
(村松委員)	着ぐるみがあるんですね。子どもが来るイベントへの参加はとてもいいと思います。グッズがとても素敵でした。どこかに売っていたりしないのですか。
(事務局)	販売はしていません。イベントで参加した方に配布しています。
(村松委員)	どこかにみどりグッズコーナーがあるといいですね。
(高田部会長)	そうですね。その売上げをまたみどりや何かに活用できるといいかもしれません。会計の仕組みが難しいかもしれません。

	<p>(村松委員) 以前のインタビューした方は「横浜農場」のバッグを持っていた方を見て、横浜にも農業があるのだと思い、市民農業大学講座に応募したと言っていました。引っ越してきたばかりの方だったので、みんながグッズを持ったらより広報につながると思います。</p>
	<p>(事務局) 先日配布したグッズも、これまで使っていたものを今年度リニューアルして作りました。委員の皆さんにも是非活用してもらい、関係者に配ったりもできるので、言ってもらえればお渡しできると思います。</p>
	<p>(奥井委員) 実績に関する質問をいくつかします。まず広報よこはま等への記事掲載で「こどもタウンニュース」というのは小学生への配布でしょうか。画像を見ててすごくわかりやすいと思いました。</p>
	<p>(事務局) 基本的には横浜市の公立小学校の全児童に配付していると聞いています。学校で配られたものを家に帰って、親に見せます。子どもにも知ってもらいたいし、親にも分かってもらえるかと思っています。記事の枠を買い取ってこのように載せています。</p>
	<p>(奥井委員) 例えば、これは「緑区版」と書いてあります。その区に特化した記事で区版が出るのでしょうか。</p>
	<p>(事務局) 広報よこはまは全域で全く同じ記事の部分と、各区役所でつくっているページがあります。今回は緑区版に、緑区に在住の方に向けた内容を載せています。人生記念樹の配布などの取組を紹介するときに「みどりアップ計画で進められています」と表記しています。</p>
	<p>(奥井委員) 市だと全体的なレベルですが、区だと自分事で身近なことを知らせています。より興味を持ちやすいのではと思いました。</p>
	<p>(事務局) みどりアップ計画でやっている事業の中には、局の予算を区に配付して、区役所でみどりアップの取組をやってもらう事業があります。広報よこはまの区版は区役所で編集できるので、そういうときにできるだけ載せてもらうよう我々からもお願いしているし、彼らも自分たちのイベントに多くの方が来るようPRしたいので載せていると思います。我々の取組をやって広報に出してもらい、区民に知ってもらいます。</p>
	<p>(奥井委員) 53 ページのアンケートはどのような方法で何人くらいに調査していますか。</p>
	<p>(事務局) この調査は、無作為抽出で 18 歳以上の市民 5,000 人に対して実施しています。回収は 1,785 票、35.7 パーセントでした。まずまずの回収率です。郵送した回答票に二次元コー</p>

	ドを付けてスマホからでも回答できるようにしました。
(村松委員)	調査方法は記載したほうがいいのかもかもしれません。
(高橋委員)	「施策についての評価・提案」の3つ目で、「計画を知っている割合は、前年度から伸びており」とあります。このページだけ見ても分かるように「市民意識調査によると、みどりアップ計画を知っている」という言葉があったほうがいいです。何人を対象にし、回答者が何人か、このページだけでも分かるようにしたらと思います。 実績のところは以前は単純に「ホームページ更新」というような文言でしたが、その頃と比べると、より見える化されていて分かりやすくなりました。
(高田部会長)	「Twitter の発信回数を多く」ということでしたが、どう多くなるのか、もう少し具体的に効果があったことをデータで入れるとより伝わりやすいです。
(村松委員)	メルマガの登録者数や Twitter のフォロワー、LINE の友だちの数値が見えると、「すごいな」と思います。
(高橋委員)	市担当者からのコメントのところに「216 件の投稿」などと書いてありますが、もう少し詳しくあってもいいです。このページの中に納めるのは大変でしょうが、必要な情報の一つのページの中で把握できるようにしたらいいと思います。
(高橋委員)	この 11 月末時点の情報は実績が固まったら変わるということでもいいですか。
(事務局)	はい。
(高橋委員)	柱3の中に「幼稚園、保育園、小中学校へのみどりの創出・育成」があります。実績もあります。「みどりアップでやった」というプレートは置いているのですか。
(事務局)	置いています。それほど大きくなくて目立たないかもしれませんが、「みどりアップの取組で実施しました」というのは必ず表示してもらっています。
(高橋委員)	人生記念樹は新入生が入ったときに学校に記念樹を配ることはできないでしょうか。
(事務局)	入学のタイミングで、案内のはがきの付いたパンフレットを配っています。配付は年2回、18 区で行っています。申し込んでいただき、区役所などに取りに来てもらいます。
(高橋委員)	基本的には個人対象にやっているのですね。
(事務局)	住宅事情などによって植えられない人もいるので、希望者に応募してもらいます。

(高橋委員) 若年層の認知度を上げる中で、学校に配って、校庭に植えてもらい、「あなた方が入学したときの木だ」という形にしたらと思います。入学式のときに写真を撮り、6年間水をやって、卒業式で木が大きく育ったところで写真を撮ったらと思います。場合によっては植えるときに一緒に関わってくれたらと思います。みどりアップ計画でみどり税が使われたものだということが分かるような活動にしたら、子どもたちが自分の木に愛着を感じます。同窓会のときにも記念樹があったら、いい思い出になります。

(事務局) 「子どもをはぐくむみどりの創出」ということで事業があります。公立、私立にかかわらず、保育園、幼稚園、小中学校までそれぞれの施設のニーズが少し違います。木を植える場合にそのスペースも必要です。保育園などはかなり園庭が狭くて、なかなかスペースがありません。プランターを幾つか並べる形でも植栽ができるようにしていたり、狭いところでビオトープのようなものをつくったり、できるだけ子どもの近くでみどりの取組をどんどん進めていきたいと思っています。そこは委員の考えと我々も同じです。
施設ごとに何ができるのか違う中で、我々もどういったことをするのがいいのかというのがあります。全てのところでこの取組をやることはなかなかしにくいです。

(高橋委員) そのとおりです。学校を見てもスペースが十分であればできますが、あまりスペースがないのであれば、学校の何周年かのときに植えて、学校に関わる人たちが当番のような形で少しでも関わってくれたらと思います。色々な制約があると思いますが、何かしらうまくやってもらえたらと思います。

(高田部会長) 複合的な効果はありそうなので、植えられる・植えられないはあったとしても、記念樹としての活動の窓口を開けておき、皆さんの学校に伝えて、「やれるところはどうぞ」と促していくことがすごく重要なのかなと思います。

(国吉委員) 例えば、敷地内に十分なスペースがないならば、森などの再生する場所で、「このスペースは学校の子供たちが植える」というように、必要なところだけ植える形にするのもいいと思います。そこにみんなを訪れて、卒業後に集まったときに「こんなに大きくなった」と確認もできるでしょう。街路樹は難しいかもしれませんが、校庭や園庭に限らなくても、森や公園でもいいかなと思います。

(高田部会長) 私たちも今、国道で活動していて「こんなところは植えられるところではない」と思っている、「植えてみようか」と考えた時点で、「どこにどういう場所があるか、どういうものを植えたらいいか、どんな実績だったらいいか」というプロセスが非常に重要です。その一端としてやってもらえたととてもいいかもしれません。子どもたちが考えて、「皆さん、どうでしょう」という話合いから入ってもらえれば、自

	<p>分たちの周りの環境を見直すチャンスにもなるかなと思います。</p>
(国吉委員)	<p>皆さん集まるので「こういう活動がある」というのをアナウンスしたかったのですが、園芸関係者の中でもコミュニティガーデンやまちの花壇作りが非常に盛んです。福岡で「一人一花運動」というのをやっています。ホームページがあるので後で見てもらえたらと思います。非常に華やかで、「ちょっと参加してみたいな」というようなページです。横浜市役所のホームページから「メルマガ登録してみよう」というのはなかなかハードルが高いです。みどりや花で参加してみたいときに、一つそういうホームページがあると面白いのかなと思います。今後の課題になると思います。</p> <p>おそらく、新しくできた「一人一花推進課」が所管しています。</p>
(事務局)	<p>事業の参考にしていけるものは吸収していきたいと思います。</p>
(高橋委員)	<p>横浜市でやっていることもほかの自治体が参考している部分があると思います。似ているところがあります。</p>
(高田部会長)	<p>ほかの会合に行くと、「横浜市はとても進んでいるので、追い付いていけない」とよく聞きます。皆さん頑張っているのだと思います。</p>
(望月委員)	<p>特に行政の関係者は横浜市をウォッチしています。とても追い付いていけません。やりたいけどやれません。結局、行政には資金がありません。「よく市民の皆さんが 900 円出してくれましたね」と他の自治体職員が言っています。そこは横浜市民が緑に対する意識が高いところではないですか。逆にすごくやりがいがあります。</p>
(高橋委員)	<p>やっている内容は似ていますが「人生記念樹」と「一人一花」では、受ける印象が違います。</p>
(国吉委員)	<p>私たちはみどり税が大きな軸になっていますが、ほか自治体はお金がありません。とにかく市民を動かそうというのが非常に強いです。東京都江東区などが非常に頑張っています。なるべく予算をかけずに人を動かしてというところも大きいです。</p>
(望月委員)	<p>都民の森は奥多摩のほうに二つしかありません。それもずっと昔に制定されたそうです。それと比べると、横浜市はものすごい数です。</p>
(事務局)	<p>市民の森は増やしています。</p>
(望月委員)	<p>沢山あるなという感じです。街中にも団地の隣にも市民の森があります。行政は知っていますが、市民にそういう情報</p>

	<p>をどう伝えるかが一番大きいです。言葉だけで抽象的に「横浜はみどりが多い」という話はするのですが、みどりが多いのはなぜかという仕組みまでは市民はなかなか知らないでしょう。市民の森があり、愛護会が維持管理しています。そこをどう伝えるかです。</p>
(事務局)	<p>コロナ禍で市民の森の利用者が増えていることも聞いています。来ている方にも、みどり税が活用されてこういうのができていることをしっかりと知ってもらうよう広報を強めたほうがいいのかもかもしれません。今は「いいところがある」というぐらいになってしまっているかもしれません。</p>
(望月委員)	<p>横浜はものすごい農業市です。生産量が全国の市町村でベスト3に入る作物もつくっています。しかも、農家の農業所得がものすごく高いです。すごく生産性の高い農業をやっていることを、市民の皆さんはほとんど分らないと思います。それだけの生産量がずっと維持されています。農についてももう少し宣伝したほうがいいです。大体、紹介されるのは市民向け販売とか地産地消とかそういうことです。</p> <p>もちろん、保護したり維持していくときに、どうしても行政の力は必要です。私の近くの農家も、農業で相当の収入があります。みどりアップのためには、単純に産業として成立していることをもうちょっと情報提供するといいいのではないのでしょうか。市民の皆さんの見方が変わってきます。</p>
(事務局)	<p>消費者目線ではなく、もう少し生産者にスライドしたほうがいいということですね。</p>
(望月委員)	<p>そうです。消費者としては、皆さん横浜の産品を日常的に色々な形で利用して、地産地消しています。地産地消にできるためには、生産者側がやはりそれだけの生産性を上げていくから提供できるのです。</p>
(奥井委員)	<p>私も知人の横浜の農家にお世話になっています。苅部さんというすごく有名な方です。神奈川県として、国がやっている全国農業賞で特別賞を受賞しました。この間NHKホールで受賞式をやっていました。</p> <p>他県はお米とか1種1作物でやっています。横浜は都市農業が特徴なので「少量多品目」というところが多いです。それで賞を取るのはすごいです。横浜の農業は素晴らしいなと思いました。</p>
(国吉委員)	<p>知人が都筑区のコマツナ農家に話を聞きに行きました。燃料代や肥料代が上がっているし、両親の世代との間にいるので、違うことをしたいと思ってもなかなかできません。色々悩みや苦勞を持っている人が多いけれど、なかなか発信する場がありません。生産者自身が孤立的な仕事しかできない状況で、非常に苦勞していると漏らしていました。こういった素晴らしい賞を取った方がいて、「少量多品種」と聞いて、「ああ、そうだな」と思いました。そういう特徴があること</p>

を、消費者はなかなか知りません。お米やリンゴといった一
種類で賞を取れば、「すごい技術を持っているのだな」と分
かりますが、「少量多品種」の素晴らしさは伝えていかなけ
ればわかりません。色々なものを満遍なく生産しながらよい
ものをつくっていくことを、農の中でももう少しアピールして
もよかったのかなと思います。話を聞いた方から、「是非そ
ういうのをやってほしい。みどり税の中でそういうのはない
のかな」とも言われました。今後の課題です。

(村松委員) 私も農部会です。みどりアップは農の中でも、市民との関
わりの部分をやっています。

私が行っているところも専業農家で、とても色々な作物を
工夫してつくっています。どの農家も問題は人手不足です。
今後の課題です。地方で大規模にやっているところは実習生
を入れたりしていますが、横浜は多分そこまではできませ
ん。横浜ならではの人手不足解消は市民だと思っています。私た
ちも市民団体のボランティアで行っているわけです。横浜に
はそういう人がたくさんいます。

私たちの世代は小さい頃、農業をたくさん目にしていま
す。家で多少の畑をやっていたような人もまだ残っているの
で、土いじりが好きな人はけっこういます。市民と農家を結
ぶ工夫や仕組みをみどりアップとしてつukれないかと、私も
いつも思っています。

(高橋委員) 市民農業大学講座の関係でも「はま農楽(の～ら)」のよ
うな援農の組織もできたりしています。先日の取材で行った
ときも、これから農業をやるという人は「多品種少量」と言
っていました。関係者は、多品種少量が横浜市に合っている
と言っています。市の農業ツアー(農ある横浜めぐりツアー
「横浜農場探検隊」)に参加したときですが、先ほどの苅部
さんも、飲食店などとも連携してやっているという話をして
いました。農家さんはそういう情報を色々と持っています。
もっと市民にも知ってもらう形がいいのかもしれない。

(国吉委員) 船橋市でもコマツナやニンジン農家が頑張っ、みんなで
しのぎを削っています。

(事務局) 横浜にとって農業が特徴というのは間違いないです。市民
利用や景色のところからみどりアップとしてのアプローチ
があります。そして、農業の産業を支える基盤部分がもう一
つあります。行政の中でもみどりアップで市民向けの農業が
あります。

農業は農業で、都市農業推進プランがあります。市民と農
のふれあい要素と、業を支援するような両輪でやっています。

農業は色々な部分から応援してもらいたいと思っています。
人を含めた農風景がとても大事だという話が今日ありま
した。みどりアップの観点からもっと応援できる部分がない
か、見ていきたいと思っています。生産振興というよりは市民目
線で横浜の魅力になっているのは間違いありません。

(高田部会長) 実は、レストランを開こうと準備をしています。横浜市の農を知らなかったら、普通に仕入れを考えるとところでした。まずはここから特徴を持たせてやりたいので皆さんにお話を色々伺いたいと思っています。

飲食業の方たちに発信ができていくかという、十分ではありません。私は市民推進会議に入っていたから農を知るきっかけがありました。マルシェなどは一般の方たち向けの雰囲気になっています。飲食業の方たちへの広報も重要です。「これはこういう経緯でつくられた食材だ」ということを知らせたいです。それが日々の大きなつながりになっていくと思います。この辺の広報も考えてもらいたいです。

(国吉委員) 鳥貴族は地産地消で、国産のものを使うことが企業で掲げられています。「東京近郊で社員に農業の場を見せたい。どこかないか」と相談されました。近郊といたら横浜だと思いました。非常にいいことです。外部の人を畑に入れるのには農家は非常に見苦しい部分を持っていると思います。企業の経営理念で、若い人に生産の場や収穫体験などがあるといいのかなと思います。実際にそういう要望もありました。

遠くまでは連れて行けません。でも、1日休みを取ってみんなで行くのだったら、企業研修でできるかなという感覚を持つ企業が多いと思います。飲食関係との付き合いがあり、そんな話をつい最近聞きました。

(奥井委員) 高田さんはぜひはまふうどコンシェルジュを受講すると思います。4月に募集があり、6月から始まり、2か月ぐらいで終わります。私は9期で、6回やりました。講座があり、横浜中央市場で座学と実食がありました。農業体験が1回あり、ワークショップもありました。すごくいいのは、横のつながりができます。異業種、異年齢の人たちとの情報交換もすごくできます。横浜は地産地消の意識は高まっています。

(高田部会長) 評価については、54 ページなどで色々な形で表されていますが、提案については少ないように思います。

(事務局) 提案という意味では、農の部分や、いま世の中で注目されている部分のPRにスポットを当ててみまじょうか。Twitterのところで「世代に応じて」という話がありました。今、注目を浴びているのが何なのかというのがあり、そういったものにスポットを浴びせながら広報していくといった提案を書き込んでみまじょうか。

(高田部会長) お願いします。

(望月委員) 施策に関する評価・提案で「#みんなでみどりアップ」を見ていると、けっこう頻度よく出ています。これはもう少し提案の中で伝えられたらと思います。今、パッと見て、「#ヨコハマいきものがたり」と同じくらいの頻度で出ています。

(高橋委員)	<p>生き物のほうが「いいね」が多くなります。市民の森でオオタカなど稀な生物がいると、写真を撮ろうとしたり、昆虫を採ろうとしたりしてしまう人たちもいます。どこまで情報を出すかというのは難しいところがあります。</p> <p>Action の中に#を入れたことはありますか。ないですね。</p>
(事務局)	ありません。
(高橋委員)	最後の「Action」には「#みんなでみどりアップ」も入れて、二次元コードで見られるようにしたらいいです。
(望月委員)	綺麗な写真が載っているといいです。
(国吉委員)	「農」の発信はあまり進んでいないのでしょうか。
(事務局)	農は地産地消と横浜農場で広報をしています。「#みんなでみどりアップ」で出すよりもっと前から、地産地消のほうでインスタをよく使っているようです。基本的には、消費者である市民に向けてというのが多いです。この Twitter ではなくインスタのほうの横浜農場ですね。
(国吉委員)	公園とかに葉っぱーは出ています。野菜の横に置いたらいいと思います。
(事務局)	Twitter では野菜の直売会などの発信はしています。農は農で頑張っています。
(高橋委員)	みどりアップと農の広報関係は難しいところです。
(事務局)	ターゲットが違うので広報の動きが違います。発想としては連携したり、見てもらうことが大事だと思います。その工夫かなと思います。
(奥井委員)	横浜農場は、大学生のキャンペーンで協力してやりました。神奈川大学と連携しています。
(事務局)	評価に「各事業バランスよく発信できるように」という内容を入れます。
(高田部会長)	<p>以上でしょうか。</p> <p>では、事務局の説明や、今日の皆さんの意見を反映して、評価・提案もお願いします。「効果的な広報の展開」の評価・提案については以上です。</p> <p>他に皆さんから何かありますか。</p>
(村松委員)	<p>今年度から次の委員の募集が始まると思います。</p> <p>広報・見える化部会は市民委員が5人います。部会が三つあり、それぞれ2人ずついたほうが良いような気がします。お互</p>

いに話し合うこともできるし、Actionをつくるときも、同じ部会の人を2人ずついたほうがいいです。農部会は私1人だったので寂しかったです。

(高田部会長) 市民委員を6人にすることはできないでしょうか。

(事務局) 市民推進会議は附属機関です。全体では専門的な見地や市民の方たちで、各部会の振り分けを含めて、どういうバランスで運営したほうがいいのかということは常々思っています。今の意見も参考に、事務的に色々検討して決めていければと思います。

例えば、何か特集を組むときには各部会の1名入れるということもあります。最初から増やすのか、臨機応変に加えるのかも含めて検討します。

(村松委員) 調査部会で行った先の方も「Action」で紹介したいぐらい素晴らしい活動をしているところがたくさんありました。行くと皆さんとても準備してきてくれて、資料もたくさんあります。

調査部会と「Action」の取材時期が近くなってしまい、「どちらだったか」と思うこともあります。せっかくなので、調査部会で行ったところを「Action」に載せたらと思います。取材が2回あり、調査部会が1回あるのをまとめたらと思います。調査部会を2回にして一つずつ取材するほうがすっきりするかなと思います。皆さんもそれなりに準備していて、しっかりしたところですよ。調査部会にはほかの委員もたくさんいます。1回で、その日が駄目だともうこられなくなります。取材も兼ねて調査部会を2回にして、追加取材があったら後日また行くということでもいいです。バラバラに行くよりもそういう方法を考えたらと思います。

(高橋委員) 「Action」の2号で「現地調査に行ってきました」という調査部会の記事があります。それ以降、調査部会の記事は出ていません。

(事務局) 調査部会は机上ではなく、現場を見てもらおうという趣旨です。年度報告書に委員からの意見を含め掲載しています。実質、取材をしているような感じです。「Action」で紹介するという方法もあるのですが、せっかく皆さん集まって議論いただく場ですので、年度報告書だけではなく、「Action」などそういった中で生かせる形も探りたいと思います。広報・見える化部会の在り方も色々あると思います。効率よく市民の声を市民に発信できる形で、工夫できる余地があるかなと思います。

(高田部会長) それでは、今日の会議はここまでです。ありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。

資料 ・ 特記事項	次第 資料 1 YokohamaみどりアップAction 8 号原稿案
-----------------	--